

赤潮の発生を抑制

赤潮対策底質改善実証事業



赤崎沖でサブマリンクリーナーを取り付けた 250 t 吊クレーン船



海底シストの吸い上げ



大型土運船への積み込み状況

平成 21 年、22 年と 2 年連続で発生した本町の赤潮被害の抑制のため、6 月上旬から長島周辺海域で赤潮対策底質改善実証事業を実施しました。

この事業では、鹿児島県が実証試験として赤潮被害が特に甚大で、シスト（赤潮の発生源となる休眠細胞）分布が多い海域の伊唐地区および脇崎地区の 2 カ所が対象となりました。

作業工法は、250 t 吊クレーン船に、海底土砂の表層

部分 10 cm をポンプで吸い上げる除去装置サブマリンクリー

ナーを取り付け、約 5 ha の底質改善を図ることになりました。

クレーン船と一緒に準備された大型土運船には、ポンプで勢い良く吸い上げられたシストが流し込まれ、海底の環境の悪さが一目瞭然で示されました。積み込まれたシストは阿久根漁港に運搬され、陸上の揚泥池（陸上処理）で乾燥して、その後埋め立て処分されます。

なお、この実証試験で、年度内に調査検証とデータ解析が行われることになります。